



三菱換気空清機 **クロスナイ**
J-ファンロスナイ ミニ
壁掛1パイプ取付ロスナイ



形名表示位置

- 形名
- | | |
|------------|----------|
| (寒冷地仕様) | (準寒冷地仕様) |
| VL-06JV3-D | VL-06JV3 |
| VL-08JV3-D | VL-08JV3 |
| VL-10JV3-D | VL-10JV3 |
| VL-12JV3-D | VL-12JV3 |

※寒冷地仕様品は準寒冷地、温暖地でも使用いただけます。
※準寒冷地仕様品は温暖地でも使用いただけます。

据付説明書

販売店・工事店様用

■この製品は住宅用です。それ以外には使用しないでください。故障の原因となります。
■この製品の性能、機能を十分発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付けが必要です。据付けの前に、この据付説明書をよくお読みになり、正しく安全に据付けてください。
■据付けは販売店・工事店様が実施してください。(お客様ご自身では据付けしないでください)
■電気工事は販売店・工事店様において有資格者である電気工事士の方が実施してください。(無資格者の電気工事は法律で禁止されています)

別冊の「取扱説明書」はお客様用です。据付けが完了しましたらこの据付説明書とともに、お客様にお手渡しください。

安全のために必ず守ること

誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、本文中や本体に使われている図記号の意味は次のとおりです。次の表示で区分して説明しています。

警告
誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

注意
誤った取扱いをしたときに軽傷または家財・家財などの物的損害に結びつくもの

禁止

- 風品、シャワー室での使用禁止
- 指示に従い必ず行う
- 水ぬれ禁止

警告

- 高温となる場所や直接炎があたり、油煙の多い場所、有機溶剤のかかる場所には据付けない(火災の原因)
- 改造や必要以上の分解はしない(火災・感電・けがの原因)
- 製品を水につけたり、水をかけたりしない(火災や感電の原因)
- 浴室など湿気が多いところには本体を据付けない(感電・漏電の原因)
- 交流100Vを使用する(直流や交流200Vを使用すると火災・感電の原因)
- 本体の据付けは十分強度のあるところを選んで確実に行う(落下によるけがの原因)
- 端子台は指定の電線を使用して、抜けないように確実に接続する(接続に不備があると火災の原因)
- 電気工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って必ず専門の電気工事店(電気工事士)が安全・確実に行う(接続不良や誤った電気工事は感電・火災の原因)
- 据付け後長期使用しないときは、必ず分電盤のブレーカーを切る(絶縁劣化による感電や漏電火災の原因)
- 端子台カバーは電気工事後必ず据付ける(ほこり・湿気などの浸入による漏電・火災の原因)
- 外気の取り入れは、燃焼ガス等の排気を吸い込まない、積雪で埋もれたりしない位置を選ぶ(新鮮な空気が取り入れられず、室内が酸欠状態になる原因)

注意

- 壁据付け専用です。天井には据付けない(落下によるけがの原因)
- 据付けの際は手袋を着用する(けがの原因)
- 給排気パイプは室外側に向かって下り向きになるように取付ける(雨水の浸入による感電・火災や家財等を濡らす原因)
- ドレン排出は、据付説明書に従って確実に行う(水漏れによる感電・火災や家財等を濡らす原因)
- 専用のシステム部材のフードを取付ける(雨水の浸入による感電・火災や家財等を濡らす原因)
- 下記の使用条件を超える地域・場所には据付けない
外気温度：-5～40℃(準寒冷地仕様)、-10～40℃(寒冷地仕様)
本体周囲および送気温度：0℃～40℃、相対湿度80%以下かつ最低外気温度条件(-5℃)にて露点温度7.9℃(20℃、相対湿度45%相当)となる絶対湿度以下
使用条件を超えた場合、結露水が滴下することがあります。

1. 外形寸法図

2. 同梱部品の確認

木ねじ.....4本
サブメントカートリッジ.....1個
※サブメントカートリッジは開封せずお客様にお渡しください。

システム部材(別売)が必要です

※据付けにともない下記のシステム部材が必要です。
※壁厚により給排気パイプは異なります。

	壁厚 300mm以下	壁厚 1000mm以下
フード後付け	給排気パイプ [P-30P2e-S]	給排気パイプ [P-100P2e-S]
フード先付け	給排気パイプ [P-30P2e-S] パイプ固定板 [P-50AP]	給排気パイプ [P-100P2e-S] パイプ固定板 [P-50AP]

※上記の他に室外フードが必要です。
※給排気パイプには、アルミテープと断熱材を同梱しています。

3. 据付けの前に

1. 取付板をはずす

1. 段ポールなどを置く。(本体の傷付き防止)
2. 本体固定ねじ2本をゆるめて、本体から取付板をはずす。
- 本体固定ねじは保管してください。本体据付時に必要です。

2. パネルをはずす

パネルをほぼ全開の位置まで開いて、手前に引き出す。

- 引っ掛かって固い場合はありますが、ひんじが折れないように注意してください。

お願い

- パネルをはずした後はモーターに衝撃を加えないようにしてください。(異常音の原因)

メモ ● 本体の周囲には右記の寸法以上の空間が必要です。

条件

- 本体が変形しないように、据付位置が平らであることを確認してください。(異常音などの発生原因となります)
- 室外から不快なおいを給気しない位置であるか確認してください。
- 壁内の補強材が取付板を固定できる位置にあるか確認してください。 40mm以上

4. 据付方法

フードを本体より先に付ける(フード先付け)、後に据付ける(フード後付け)により据付方法が異なります。

フード後付けの場合 本体を壁に据付けた後、フードを取付ける施工方法です。

1. 据付位置・壁穴位置を決める

- (1) 据付位置を決める。
 - 床面より1800mm以上のメンテナンス可能な位置に据付けてください。
 - 補強材(壁内)が取付板を固定できる位置にあるか確認する。
- (2) 壁穴位置の中心に印をつける。
2. φ120の壁穴をあける

2. 電源線の引き出し

- (1) 右図を参照して電源線取り出し位置を確認し、穴(φ15)をあける。
- (2) 電源線を室内側へ250mm以上引き出す。
 - 補強材はVVF単線2芯φ1.6をご使用ください。
 - 電源線が壁内へ押し戻せることを確認してください。

メモ

システム部材の変換コード(P-01DC、P-250DC)を使用すると電源プラグ対応になります。このときは電源線の引き出しは不要です。

3. 据付け前の準備

1. コーキング材の塗布

接続フランジにコーキング材を塗布する。

お願い

- フランジ端面より高く塗布してください。(パイプを押し込んだときにコーキングしきれない場合があります)
- コーキングをしないと雨水が浸入します。
- コーキング材硬化前に次の作業を行ってください。

2. 接続フランジを給排気パイプに取付ける

- (1) 給排気パイプを接続フランジの溝の奥まで確実に入れる。
- (2) 接続フランジと給排気パイプをパイプに同梱のアルミテープで巻き付けて確実に固定する。
- 確実に固定しないと、ドレン水が漏れるおそれがあります。

3. 接続フランジとパイプ接続部のコーキング

接続フランジと給排気パイプの接続部の下から半分を内側からコーキングする。

お願い

- コーキングをしないと雨水が浸入します。
- コーキング材を付けたあと表面を平らにしてください。

4. 給排気パイプを切断する

- (1) 壁厚を測る。
- (2) 下表の寸法で給排気パイプを切断する。(室外フードによって切断寸法が異なります)

室外フード	切断寸法
防火ダンパーつき	壁厚+10mm
防火ダンパーなし	壁厚+30mm

5. 断熱材の巻き付け

壁厚寸法で切断した断熱材を給排気パイプに巻き付けます。

お願い

- 断熱材は室外へ出る部分には巻き付けしないでください。フードが取付けられなくなります。

室外フード	室外へ出る部分
防火ダンパーつき	10mm
防火ダンパーなし	30mm

4. 取付板の取付け

取付板を固定する

- (1) 給排気パイプを壁穴に通す。
- (2) 天井・壁からの寸法を確認して壁内の補強材のある位置に木ねじ4本で取付板を固定する。

お願い

- 木ねじはできるだけ4すみの均等な位置で固定してください。取付板は水平(1°以内)に取付けてください。
- コンクリート壁の場合はコンクリートビスで固定してください。(市販品)

5. 電気工事

警告

- 交流100Vを使用する(直流や交流200Vを使用すると感電の原因)
- 指定の電線を使用して、抜けないように確実に接続する(接続に不備があると火災の原因)
- 電気工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って必ず専門の電気工事店(電気工事士)が安全・確実に行う(接続不良や誤った電気工事は感電・火災の原因)

1. 端子台カバーをはずす

端子台カバー固定ねじ
端子台カバー
本体

お願い

- はずした端子台カバーをなくさないでください。

2. 電源線を通す

本体背面部の電源コード引出口に電源線を通す。

- 本体電源プラグ付にした場合は不要です。

3. 本体の据付け

- (1) 取付板引掛部(上側)に本体を引っ掛ける。
 - 本体表面のドレン抜きが接続フランジの中に入ります。
- (2) 本体を壁側に押しつけて、本体固定ねじ2本(下側)で固定する。

お願い

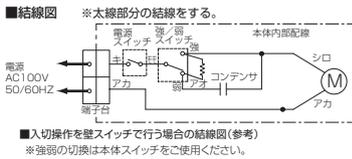
- モーターへ衝撃を加えないでください。

4. 据付方法 つづき

5. 電気工事 つづき

4. 結線をする

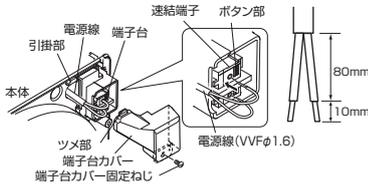
- 結線図のとおりに結線をする。電源線を右側の寸法にて皮むきし連結端子に差し込む。
 - 端子台から電源線が抜けにくいことを確認する。
 - 電源線を壁内へ押し戻す。
- 押し戻さないで端子台カバーが取り付けられなくなります。



5. 端子台カバーを取付ける

はずした端子台カバーのツメ部を本体の引掛部に引掛けて端子台カバー固定ねじで固定する。

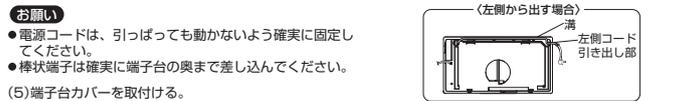
- お願い**
- 電源線を連結端子よりははずす場合は、ボクタン部を押しながら電源線を引き抜いてください。
 - ねじ穴が破損する原因となりますので、端子台カバー固定ねじを締めすぎないでください。



電源プラグ付に変更する場合

…システム部材の電源コード (別売P-01DCまたはP-250DC) を使用する

- 電源スイッチ下にある本体背面の薄肉部を切り取る。
- コードを傷つけないように端面を処理してください。
- システム部材の電源コードを電源コード引込口から端子台に引き込み結線する。
- コードに同梱のコードクリップとねじで本体背面に電源コードを固定する。
- 電源コードを左側から出す場合は、右図のように本体上部の溝に通して電源コードを左側にまわし、左側コード引き出し部から出す。



- お願い**
- 電源コードは、引っぱっても動かないよう確実に固定してください。
 - 棒状端子は確実に端子台の奥まで差し込んでください。
- (5) 端子台カバーを取付ける。

6. パネルの取付け

- パネルを取付ける。
- 図のようにパネルをほぼ全開の位置にして、はずすときと逆の順序でパネル上部の2か所の引掛部を穴に押し込んで引付け、パネルを閉じてください。
 - パネルを閉じる際は、パネルの中央下部を押して開けてください。

7. 室外側工事

- 給排気パイプと壁穴とのすき間を市販のコーキング材でふさぐ。
- お願い**
- すき間をふさがないと雨水が浸入します。
- (2) 室外フードの据付説明書に従い室外フードを取付ける。

5. 据付け後の確認 6. 試運転 7. お客様への説明 へ進む

フード先付けの場合

マンションで外装工事を先に仕上げる場合に、フードを先に付けておくことができます。以下では、マンションへの据付けを想定して説明しています。

1. 壁穴工事

- 据付位置・壁穴位置を決める
 - 床面より1800mm以上のメンテナンス可能な位置に据付けてください。
 - 右図を確認し壁穴位置を決める。
- 壁穴をあける
 - 内径φ125のボイド管 (またはさや管) を入れ、コンクリート壁を作る。
 - ボイド管 (またはさや管) を引き抜く。
- 外装壁面を仕上げる

2. 据付け前の準備

- コンクリート厚を測定する

図を参照してコンクリート厚を測る。(コンクリート厚には外装仕上面厚を含む)
- 給排気パイプの挿入

パイプ固定板に給排気パイプを挿入する。

 - パイプ固定板には方向性があります。突起部が室内側になります。
- パイプ固定板の位置決めと給排気パイプの仕切方向
 - パイプ固定板の上下方向を確認し、右図のような給排気パイプの仕切の方向にする。
 - コンクリート厚+パイプ室外寸法Aを決め、その位置にパイプ固定板をセットする。
 - 給排気パイプに同梱のアルミテープで、パイプ固定板と給排気パイプを固定する。

室外フード	パイプ室外寸法A
防火ダンパー付	10mm
防火ダンパーなし	30mm

- 断熱材の巻き付け

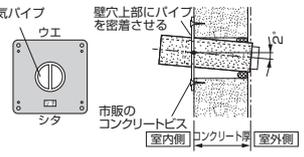
コンクリート厚寸法で切断した断熱材を給排気パイプの室内側・室外側に巻き付ける。

 - パイプ室外寸法Aについては、上記手順3の表を参照ください。

- お願い**
- 断熱材はパイプ室外寸法Aには巻き付けられないでください。フードが取付けられなくなります。

3. 給排気パイプの取付け

- パイプ固定板の上下方向を確認し、給排気パイプを壁穴に通す。
- 室内側の給排気パイプが壁穴の上部に密着するようにパイプ固定板を位置決める。
- コンクリートビスの固定位置(4か所)に印をする。
- 給排気パイプを一目取り出す。
- コンクリートビスの予備穴を開ける。
- 給排気パイプを挿入しパイプ固定板をねじ止めする。(市販のコンクリートビス4本)



4. 室外側工事

- 壁穴をふさぐ

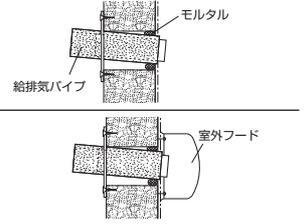
給排気パイプと壁穴とのすき間をモルタルなどでふさぐ。

お願い

 - 給排気パイプには傾斜が必要です。ふさぐ際に上下に無理な力を加えずに仕上げてください。
 - すき間をふさがないと雨水が浸入します。
- 室外フードの取付け

室外フードの据付説明書に従い室外フードを固定する。

この時点で室外側の工事は完了です



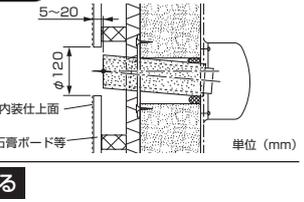
5. 内装工事

- 給排気パイプの切断と内装仕上
 - 内装仕上面から給排気パイプ端部の寸法が5~20mm以内の範囲になるよう給排気パイプを切断する。

お願い

 - 内装仕上面から給排気パイプ端部の寸法 (5~20mm) を守ってください。
- 電源線の引き出し

裏面を見る



6. 取付板の取付け

- コーキング材の塗布

接続フランジにコーキング材を塗布する。

お願い

 - フランジ端部より高く塗布してください。(パイプを押し込んだときにコーキングしきれない場合があります)
 - コーキングをしないと雨水が浸入します。
 - コーキング硬化前に次の作業を行ってください。
- 接続フランジと給排気パイプの接続

接続フランジを壁内の給排気パイプに挿入する。
- 取付板の固定

天井からの寸法を確認して壁内の補強材のある位置に木ねじ4本で取付板を固定する。

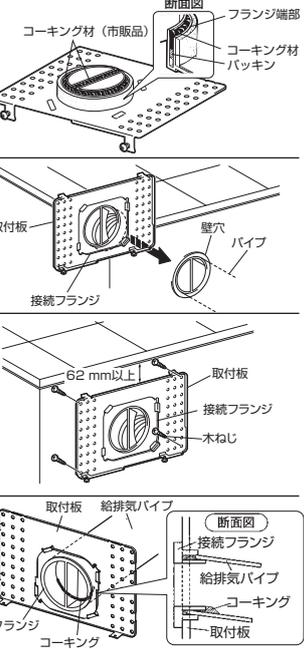
お願い

 - 木ねじはできるだけ4すみの均等な位置で固定してください。
 - 取付板は水平(⊥)以内に取付けてください。
 - コンクリート壁の場合はコンクリートビスで固定してください。(市販品)
- 接続フランジとパイプ接続部のコーキング

接続部の下から半分を内側からコーキングする。

お願い

 - コーキングをしないと雨水が浸入します。
 - コーキング材をつけたあと表面を平らにしてください。



以下の工事は **フード後付けの場合** と同様に行ってください。

7. 電気工事

8. パネルの取付け

5. 据付け後の確認

- 据付け終了後、試運転の前にチェック表にしたがって点検します。
 - 不具合があった場合は必ず直してください。(機能が発揮されないばかりか、安全性が確保できません)
- チェック表**
- | チェック項目 | 不具合時の対策 | チェック |
|--------------------|--------------------------------|------|
| 本体の据付け強度は十分ですか? | 補強する | |
| 本体が確実に据付けられていますか? | 本体固定ねじを締め直す | |
| コーキングはしましたか? | コーキングをします (コーキングをしないと雨水が浸入します) | |
| パネルが確実に取付けられていますか? | パネルを取付け直します | |
| 電圧は100Vですか? | 100Vに直します (異電圧を印加すると破損します) | |

6. 試運転

- できるだけお客様立ち合いで、試運転を行ってください。
- 電源を入れる

分電盤のブレーカーを入れ、電源プラグ付の場合はコンセントに差し込む。
 - 本体の電源スイッチを入れて運転状態の確認をする

運転のしかたは、取扱説明書をご覧ください。
 - 異常な振動・騒音がないか確認し、確認後停止する分電盤のブレーカーを切り、電源プラグ付の場合はコンセントから抜く。

7. お客様への説明

- 分電盤のブレーカーの位置、および電源プラグ付の場合はコンセントの位置をお客様へ説明してください。
- チェック表の結果をお客様へお知らせください。
- この「据付説明書」は、別冊の「取扱説明書」、「サブリメントカートリッジ(未開封状態)」とともにお客様にお渡しください。
- お客様が不在の場合は、発注者 (オーナーなど) または、管理人様へ説明してください。